

巻 頭 言

問い続けたい「その人の暮らしを織りなすナラティブエシックス」

第15回看護福祉学部学会学術大会は2018年9月8日(土)開催予定であったが、9月6日に発生した胆振東部地震により中止となった。甚大な被害状況を目の当たりにし、全道民が被災者であり、医療福祉専門職者として救護活動にあたるのが優先されると考え、開催を中止せざるを得なかった。幻の学術大会となってしまったことは大変残念ではあるが、震災を体験したことで、平穏な毎日の暮らしは当たり前にあるのではなく、様々な奇跡が重なり合って成り立っていること、その暮らしは支え合いで織りなされていることを強く考えさせられた。また、暮らしの中の危機管理の甘さも痛感し、ここでしっかり考えなさいと、啓示を受けたような気もする。

学術大会のテーマであったナラティブエシックスとは、物語る医療倫理であり、療養者や家族によって語られる物語に真摯に・誠実に向き合う保健医療福祉専門職者の「応答の姿」である。これは、予定していた特別講演講師、金城隆展先生の説明である。病いや障害など困難な状況に置かれ、その意味を見出せずにゆらぎ、翻弄されている療養者や家族が目の前にいた時の、向き合い方のことである。療養者には人生物語があり、語られる物語は無数にある出来事の中から何を選び、どのように繋ぎ、織りなすかで変わる。その物語には本人の大切な思いや希望、考えが潜んでおり、様々な決定をする時の礎となっている。そう考えると、物語を聴く保健医療福祉専門職者の倫理が問われる。簡単に正当化せずに、立ち止まり、考え、専門職者としての自分に問いかけることが必要となる。真摯に向き合っているか、誠実に向き合っているかが問われるのである。療養者の物語を尊重し、療養者と共同しながら物語を紡いでいく(共同著作)、それが実践された時、本当の意味でその人らしい暮らしを織りなす支援になるのではないかと考えている。当日は、ナラティブエシックスの概念や意味を問い直し、物語に対する向き合い方とケアに生かす方策を考え、ディスカッションする予定であった。開催されていたならば、自分の中でもう少しクリアで、具体的になっていたと思うが、明確に説明できない歯がゆさが残る。そのため、この先もこのテーマについて問い続け、いつかどこかで皆様と共有できる機会があることを願い締めくくりたいと思う。

最後に、学術大会開催中止にあたり、皆様にご理解、ご協力いただいたことに、この場を借りて感謝の気持ちをお伝えしたい。ありがとうございました。

第15回学術大会長 佐々木 栄子